

2016年9月17日（土）～11月20日（日）
KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭

<http://kenpoku-art.jp>

開幕1か月で31万4000人の来場者を記録

チェ・ジョンファによる《Love Me》公開
茨城県天心記念五浦美術館にて10月30日（日）より

ワークショップ・イベントのご案内

茨城県北芸術祭実行委員会(会長:橋本 昌(茨城県知事))は、2016年9月17日(土)から11月20日(日)までの65日間、茨城県北地域6市町(日立市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町)を舞台にした初めての国際芸術祭「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」を開催中です。

9月17日の開幕から1か月、来場者数は、延べ31万4千人に達しました(10月21日発表時点)。

閉幕まで約1ヶ月、会期もいよいよ後半、これからも新作の発表、ワークショップを展開していきます。多くの皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。

プレスリリースご紹介内容

2P： チェ・ジョンファによる新作《Love Me》

3P-5P： イベントのご紹介（抜粋）

全イベントはホームページのイベント情報よりご覧ください <https://kenpoku-art.jp/event/>

6P： KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭 概要

【報道関係者向けお問い合わせ先】

茨城県北芸術祭実行委員会東京事務局（エヌ・アンド・エー 株式会社内）

TEL：03-5545-3627 FAX：03-5545-3628 Email：press@kenpoku-art.jp

【各種お問い合わせ先】

茨城県北芸術祭実行委員会事務局

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978番6 TEL 029-301-2727（直通） FAX：029-301-2738 E-mail：info@kenpoku-art.jp

チェ・ジョンファによる新作《Love Me》10月30日（日）茨城県天心記念五浦美術館に登場



六本木アートナイト（六本木ヒルズ）での展示風景 2016

韓国を代表する現代アーティスト、チェ・ジョンファによる大型作品《Love Me》が、10月30日(日)、茨城県天心記念五浦美術館に登場します。光沢のあるピンクの布で作られた、羽の生えた巨大なブタのバルーン。ブタは幸福のシンボルです。呼吸するかのように背中中の羽がゆっくりと動きながら、観る人を楽しませてくれます。また、チェ・ジョンファの作品は竜神大吊橋でもご覧いただけます。

作品概要

作品名：Love Me 作家名：チェ・ジョンファ

展示会場：茨城県天心記念五浦美術館（茨城県北茨城市大津町椿2083） 鑑賞時間：9:00-17:00（入館は16:30まで）

入館料：一般：1,000円（団体割引：900円） ※作品鑑賞パスポートをご持参の方は無料

ワークショップ情報「みんなアーティスト チェ・ジョンファさんと翼のはえた動物をつくろう」

茨城県天心記念五浦美術館にとつぜん現れた大きな翼の生えたピンク色のブタさん。

韓国出身のアーティスト チェ・ジョンファさんがつくったこのブタさんの名前は「Love Me（ラブ・ミー / 私を愛して）」です。ブタさんは大きく首をふって、みなさんにごあいさつしています。

「Love Me」のおひろめにあわせて、粘土をつかって、自分の干支（えと）に翼をつけたふしぎな動物をつくりましょう。世界にひとつだけの思い思いの動物をつくり、大きなブタさんのまわりに並べていきましょう。

創作の楽しみを味わっていただくワークショップです。

日時：10月30日（日）10:30-12:00（受付開始 10:00） 会場：茨城県天心記念五浦美術館 講座室

ゲスト：チェ・ジョンファ 当日先着：20名（予約不要） 参加費：無料 材料費：500円

対象年齢：小学校6年生まで（未就学児童は要保護者同伴）



チェ・ジョンファ CHOI Jeong Hwa

1961年、韓国生まれ／在住

韓国を代表する現代アーティスト。アート・ディレクションやインテリア・デザインも手がけるなど多様な分野で国際的に活躍するチェは、日常の事物から作品の着想を得て、強烈な色使いとダイナミックな造形で花や雲と空、などを制作し非日常的な彫刻作品をつくりあげ、我々の気づいていなかった視点をもって現実のあり方を見直すことを促している。アジア、ヨーロッパ、アメリカでの個展、グループ展参加多数。

ワークショップ・イベントのご案内

会期中、各所で開催し、ご好評をいただいているワークショップ。後半のイベントを抜粋してご案内いたします。



カレーキャラバン

全国のまちへ出かけ、その場所で調達した食材と、居合わせた人びとの知恵をまぜあわせ、カレーをつくる「出沒型食プログラム」。まちなかでカレーをつくり、まちの人びとや、たまたまおとずれた人びとと一緒にカレーを食べ、その日その場かぎりの時間を味わいます。KENPOKUでは、6市町を巡り、カレーをつくります。一緒にカレーを食べながら、まちを知り、人びととの紐帯について考えてみませんか？※事前申込は不要

日程：10月29日（土） 会場：北茨城市
11月5日（土） 会場：常陸大宮市
11月6日（日） 会場：高萩市



チームラボの作品でお茶体験

チームラボの作品《小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々》は、お茶を点てると、茶碗の中に花々が生まれ咲いていく作品です。会期中の毎週日曜と祝日に、展示室内に設えたお茶室にて《小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々》を、亭主がお出しするお抹茶とともに体験・鑑賞いただくことができます。

亭主：鈴木宗博（裏千家）、鈴木宗喜（裏千家） 他
会場：茨城県天心記念五浦美術館（茨城県北茨城市大津町椿2083）
日程：10月30日（日）、11月3日（木・祝）、11月6日（日）

11月13日（日）、11月20日（日）
各日10:00～16:00（休憩あり）

5分ごとの時間指定の整理券をお求めいただけます。

参加費：500円

ご入場には別途作品鑑賞パスポートもしくは個別鑑賞券要

定員：各日40人

事前申込不可。当日、美術館内インフォメーションカウンターにて整理券をお買い求めください。



作品上映「from here to there」/ラファエル・ローゼンダール

電気自動車の電源を使って、街の建物に映像を投影する上映会を開催します。アーティストのラファエル・ローゼンダールによるシンプルな造形と動き、象徴的な色彩、遊び心に満ちた映像が鑑賞できます。

11月4日（金）常陸大宮市石沢地区芸術祭作品展示場所
（旧ゲームセンター/茨城県常陸大宮市石沢1691-2）

17:00-17:45 アーティストトーク

18:15-19:00 上映

11月5日（土）常陸太田市役所駐車場（常陸太田市金井町3690）

18:00-19:00 上映

いずれも申込は不要です。20分程度の映像を繰り返し上映します。

協賛：茨城日産自動車株式会社



aPrayer まだ見ぬ つくれしものたちの慰霊 2016/岩崎秀雄+metaPhorest



ヴァイド・インフラ 2016/Vide Infra



折り紙ミューテーション 2016/BCL



空白のプロジェクト#3 - 大宇宙(うちゅう)の片隅/三原聡一郎

県北バイオ・ミーティング (KBM)

ミネラルやバクテリアに富む土壌が豊かな植生や作物を生み、和紙や発酵文化を育んできた県北地域。旧自然休養村センターでは、バイオアートの作品5点が県北ならではの古い地層や生態系に寄り添うかたちで展開されています。地元の発酵関係者や県内の自然科学研究者の協力を得た作品たちは、閉じたラボから出て、この地と関わるバイオアートを提示しています。これらの作品は、生活や食とも密接に関係します。

県北バイオ・ミーティング (KBM) では、地域の自然、食、文化とバイオアートの最先端を結びつけ、分野を超えて人々が集う場を提供します。出展アーティストや県内外の専門家によるセッション、周辺の自然をめぐりエクスカーションで、参加者が五感をフルに開き楽しめるバイオアートの集いとなるでしょう。※ときわ路は三原聡一郎の苔玉の生育に協力、9月より苔をテーマとした「Moss Cafe」を展開中。

日程：11月5日（土）11:00-16:30

会場：旧常陸太田市自然休養村管理センター ロビー

参加者：岩崎秀雄 + metaPhorest、Vide Infraチーム、BCL、
三原聡一郎/以上出展アーティスト

ゲスト：青野真士(東京工業大学 地球生命研究所 准教授・准主任研究者)

天野一男 (茨城県北ジオパーク推進協議会顧問/茨城大学名誉教授)

岡崎靖 (ヨネビシ醤油株式会社取締役・合同会社ポットラックフィールド里美代表)

清水修 (植物研究者)

舘悦子 (里山ホテル ときわ路 さかせる係)

モデレーター：四方幸子 (茨城県北芸術祭キュレーター)

内容・スケジュール

11:00-12:15

セッション①「県北の地層、生態系とバイオアート」

清水修、天野一男、三原聡一郎、BCL

12:15-13:30

エクスカーション&ランチ ガイド：舘悦子

*ときわ路特製発酵食ランチ/雨天の場合はときわ路にて

13:30-14:45

セッション②「県北の発酵文化とバイオアート」

Vide Infraチーム、岩崎秀雄+metaPhorest、岡崎靖

15:00-16:15

セッション③「ラボと自然をむすぶ：合成生物学と生態系」

青野真士、Vide Infraチーム、岩崎秀雄、BCL、三原聡一郎

*発酵いっぱい!里山ホテル特製『おむすびころりん里山弁当』(1000円) 予約販売。



力石咲「夕方のニットインベージョン」@常陸多賀

常陸多賀駅周辺の街路樹や手すりなど、街のあちこちらがニットによって包まれているという、力石咲によるプロジェクト、ニット・インベーター。室内の編み機で編まれたニットが屋外の公共空間へと拡張しています。編み物が、街へ出て行き、風景を完全に変わってしまうこのプロジェクトは、人と街との密接なコミュニケーション形成を促しています。ニット・インベーターは世界を編み包む野望を抱いています。そんな力石咲の作品制作に参加できるワークショップです。参加者は力石さんお手製のニットスーツを着て作業ができます。力石さんから編み方のレクチャーを受け、一緒に街をインベージョンしましょう！

日時：11月5日（土）15:00-16:00

場所：旧銀行前集合（茨城県日立市千石町1-4-18）

参加費：無料 先着10人

事前申込不要。直接会場にお越しください。



和田永「エレクトロニクス・ファンタスティコス！」

和田永を中心に、あらゆる人々を巻き込みながら新しい楽器を開発し徐々にオーケストラをつくっていくプロジェクト。「黒電話リズムマシーン」「換気扇サイザー」「ブラウン管ガムラン」などの古い家電を使った楽器を開発してきました。ご近所さんから家電を持ち込んでもらったり、みんなと一緒に新しい楽器や演奏の仕方を考えたりすることで、鑑賞を超えた新しい音楽の関わりの形を模索し、オーケストラの実現を目指します。観客参加型のコンサートです。是非ご参加ください。

日時：11月19日（土）

場所：日立シビックセンター新都市広場およびマーブルホール

（茨城県日立市幸町1-21-1）

KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭について



茨城県北芸術祭実行委員会(会長:橋本 昌(茨城県知事))は、2016年9月17日(土)から11月20日(日)までの65日間、茨城県北地域6市町(日立市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町)の海と山を舞台に、国際芸術祭「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」を開催いたします。

風光明媚な海と山が織り成す豊かな自然に恵まれた茨城県北地域を舞台に、自然と調和するアート、科学技術を用いたメディアアート、さらに次世代の変革を担う生物学を援用したアートなど、最先端の芸術作品も登場します。総合ディレクターに森美術館館長の南條史生氏を迎え、日本最大級の規模で展開する芸術祭です。

開催概要

名称	KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭
テーマ	海か、山か、芸術か?
会期	2016年9月17日(土)～11月20日(日)[65日間]
開催市町	茨城県北地域6市町 日立市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町
主催	茨城県北芸術祭実行委員会 (会長 橋本 昌 茨城県知事)
作品数	約100 (プロジェクトを含む。17の国と地域より85組のアーティストが参加)
主な展示会場	1 五浦・高萩海浜エリア(茨城県天心記念五浦美術館周辺や高萩市の海浜部) 2 日立駅周辺エリア(JR常磐線日立駅周辺) 3 奥久慈清流エリア(常陸大宮市の久慈川流域やJR水郡線常陸大子駅前地区) 4 常陸太田鯨ヶ丘エリア(常陸太田市中心部)

ディレクターチーム	総合ディレクター：南條 史生 キュレーター：四方 幸子、金澤 韻 クリエイティブディレクター：谷川 じゅんじ コミュニケーションディレクター：林 千晶 オフィシャルデザイナー：岡本 健 ジェネラルマネージャー：桑原 康介
-----------	---

公式ホームページ	http://kenpoku-art.jp
イメージ映像	https://youtu.be/MvCDvyw0-0A

